



『キクの白さび病防除』

白さび病はキク類に発生する病気の中でも難防除の病気です。特に梅雨時期は感染拡大しやすいため、雨の合間に防除を行ってください。

《被害の特徴》

はじめに葉に直径1mm程度の乳白色の小斑点ができます。その後小斑点は黄色みを増しながら直径2~3mmまで大きくなり葉裏にイボ状の冬孢子堆を形成し隆起します。葉表は、円形で黄白色または黄色の斑点になります。

その後イボ内で形成された小生子が風雨により飛散し、感染・発病します。

《発生しやすい条件》

- ・梅雨や秋雨など多湿な条件で発生しやすい。
- ・肥料不足及び窒素過多は発病を助長する。

《対策》

- ・定期的な薬剤散布を行い、親株管理～育苗時の防除も徹底する。
- ・無発病の健全苗を定植する。また、親株も無発病の株を選定する。
- ・病葉は摘み取り圃場外に持ち出し処分する。病葉を触った手で健全な葉を触らないようにする。
- ・排水不良地では高畝とし、明渠及び暗渠を設置し、排水性を改善する。
- ・適正な肥培管理を行い、健全な草勢を保つ。



キク白さび病登録農薬の例

令和4年6月現在

農薬名	希釈倍率	使用回数	有効成分	FRAC	備考
ダコニール1000	1000倍	6回以内	TPN	M5	汚れ注意
ジマンダイセンフロアブル	500~800倍	8回以内	マンゼブ	M3	
ベンレート水和剤	1000倍	6回以内	ベノミル	1	
トリフミン水和剤	1000倍	5回以内	トリフルミゾール	3	
ラリー乳剤	3000倍	5回以内	マイクロブタニル	7	
アフェットフロアブル	2000倍	3回以内	ベンチオピラド		
パレード20フロアブル	2000~4000倍	3回以内	ピラジフルミド	11	
ストロビーフロアブル	2000~3000倍	3回以内	クレソキシムメチル		
アミスター20フロアブル	2000倍	5回以内	アゾキシストロビン		
ポリオキシシンAL水溶剤	2500倍	8回以内	ポリオキシシン	19	

～薬剤選択の注意点～

- ・着蕾期～開花期は汚れ注意の薬剤の使用を避ける。
- ・耐性菌出現を避けるためFRACの異なる薬剤を輪番で使用する。